

茨木市の地域特性

(1) 自然特性

1) 位置・地勢

本市は、淀川北の大阪府北部に位置し、北は京都府亀岡市に、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能郡豊能町に接しています。北半分は丹波高原の老の坂山地の麓で、南半分には大阪平野の一部をなす三島平野が広がっています。

南北 17.05 km、東西 10.07km、面積 76.52km² の、南北に長く東西に短い形で、北から南に向かって安威川・佐保川・茨木川・勝尾寺川が流れています。



図 茨木市の位置 (地図データ変更予定)

2) 気象

本市の気候は穏やかな瀬戸内気候区に属し、日照が多く比較的温暖であり、市の中心部における平年の平均気温は16.8で、山地部においては13前後とやや冷涼性を帯びています。

平均風速は1.8m/sで大阪府観測所(2.6m/s)よりも低く、日照時間は1,822時間/年と大阪観測所(1967時間)よりも短くなっています。平均気温は1980年から2009年の約30年間で、2度以上上がっています。

図 茨木市の降水量と平均気温

(出典：気象庁 気象データ(枚方観測所))

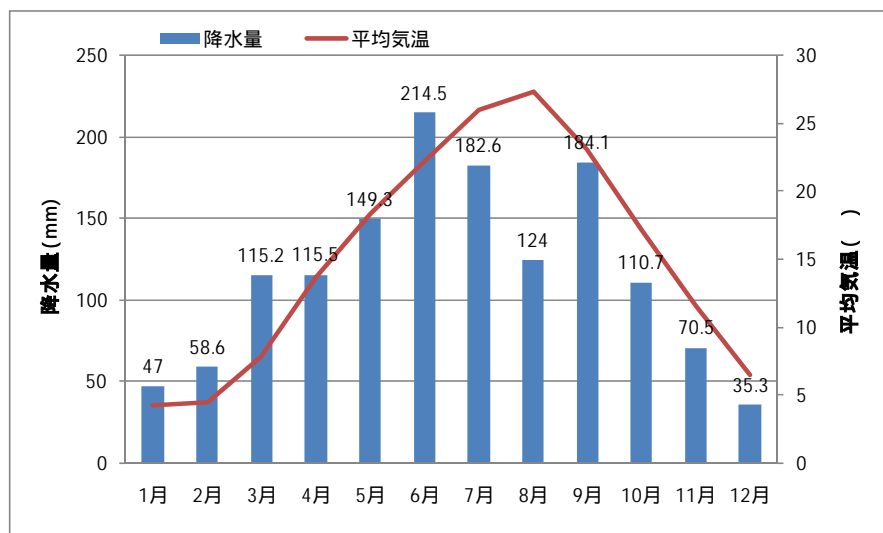
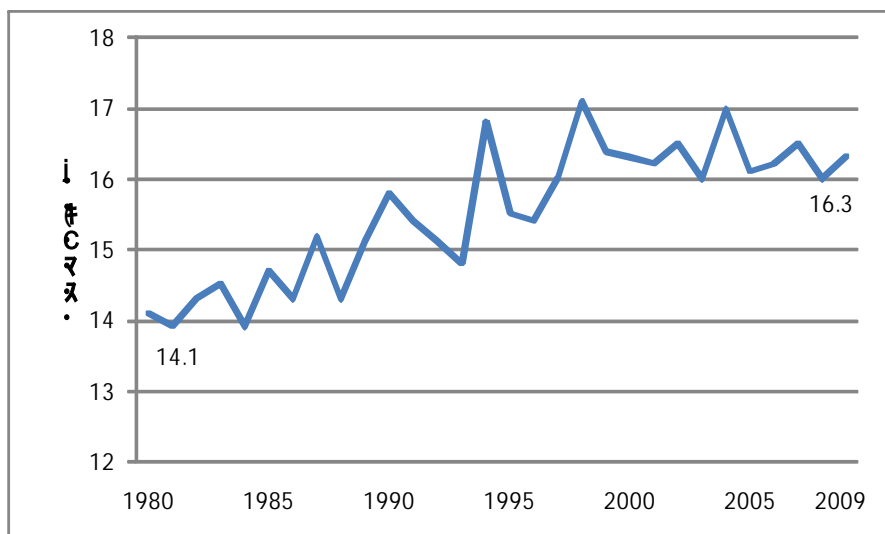


図 茨木市の平均気温

(出典：気象庁 気象データ(枚方観測所))



(2) 社会・経済特性

1) 人口と世帯数

本市の人口は273,796人、世帯数は112,196世帯です(平成21年10月現在)。人口、世帯数ともに増加を続けていますが、世帯数の増加が人口の増加よりも急激に進んでいるため、1世帯あたり人数は、1990年に2.88人だったものが、2005年には2.53人と減少しています。これを国全体と比較した場合には、わずかに少ないですがほぼ同数です。

年齢3区分別推移では、15歳未満が減少し、65歳以上が増加しており高齢化が進んでいます。世帯の家族類型では、単身世帯や夫婦のみの世帯が増加し、夫婦と子供から成る世帯が減少しています。

図 人口と世帯数 (出典：茨木市統計書)

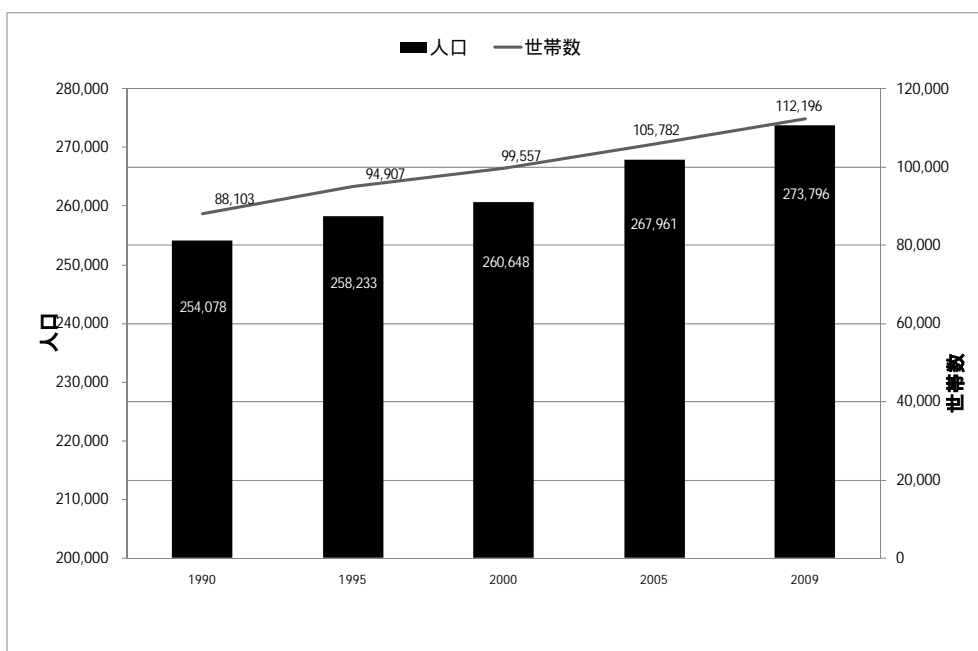


図 1 世帯あたり人員数 (出典: 茨木市統計書)

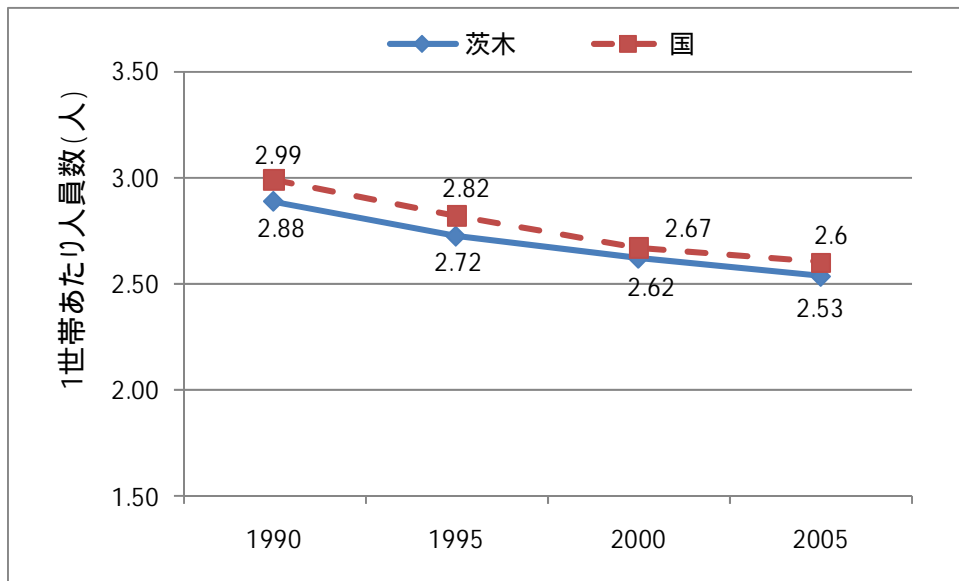


図 世帯人数別人口数の変遷 (出典: 茨木市統計書)

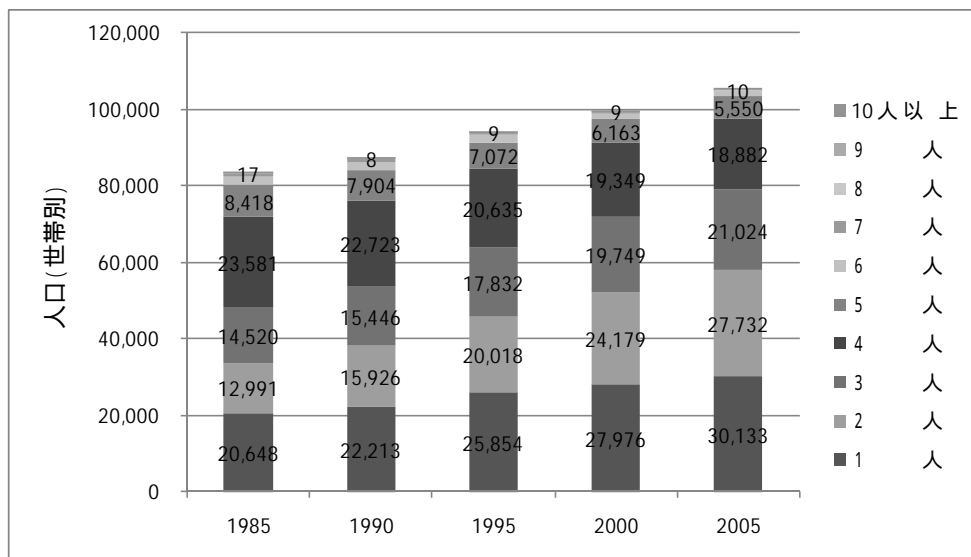


図 年齢3区分別推移

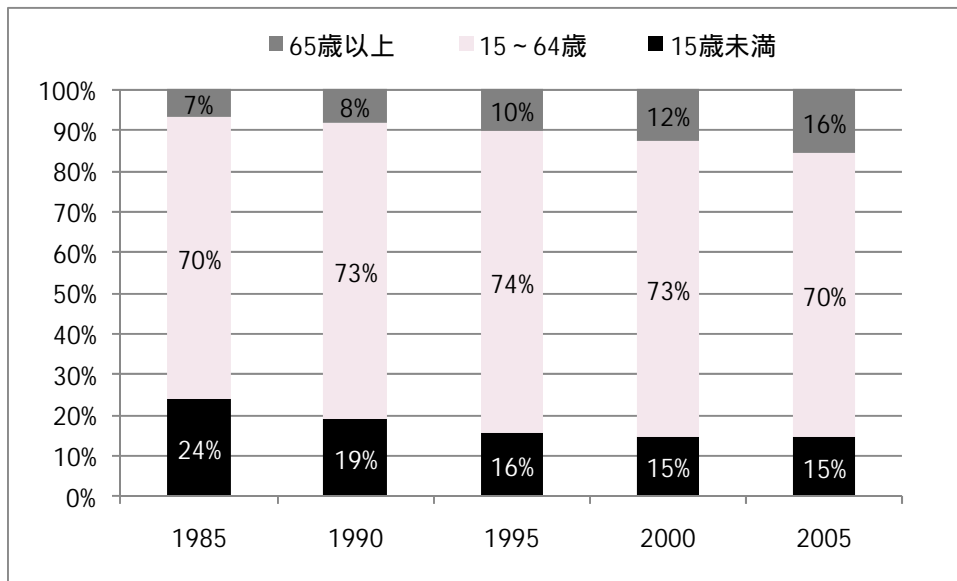
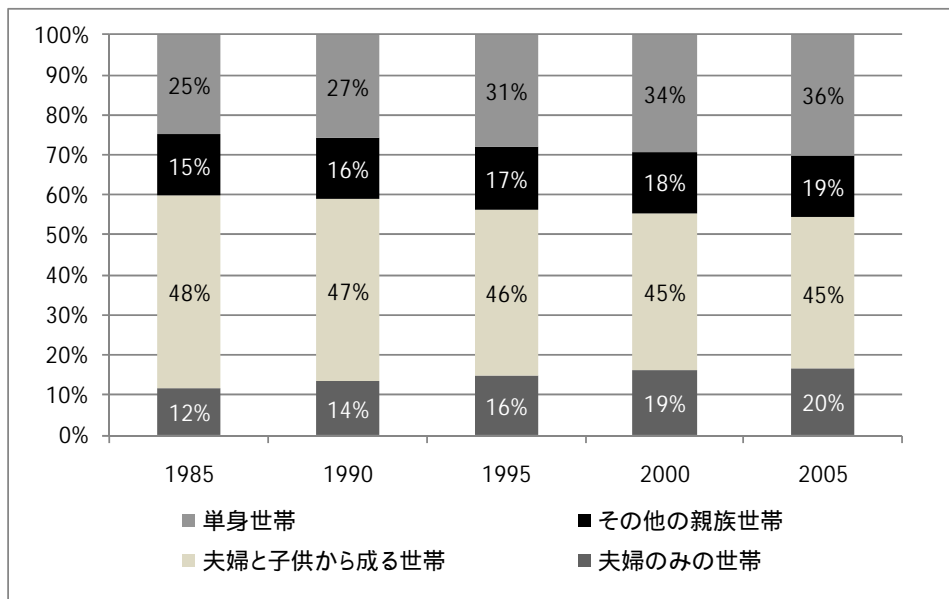


図 世帯の家族類型



2) 産業

茨木市内の事業所数は9,172事業所、従業者数は103,486人(2006年現在)です。事業所、従業者数ともに1996年をピークに下がり始めており、1996年～2006年の10年間で、約900事業所、1万人の減少となっています。

製造業に関わる規模別事業所数では、10人未満の小規模事業所数の減少が進んでいます。製造品出荷額は2005年をピークに同程度で推移しています。産業分類別には、第3次産業に携わる事業所が非常に多い状況です。

図 茨木市内の事業者数・従業員数(出典:茨木市統計書)

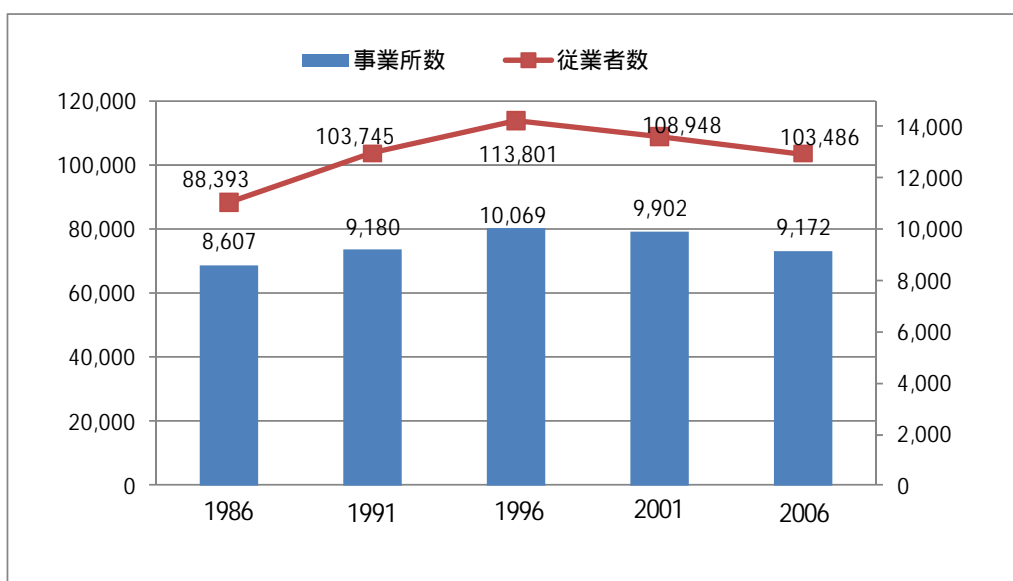


図 事業者規模別の事業所数(製造業)(出典:茨木市統計書)

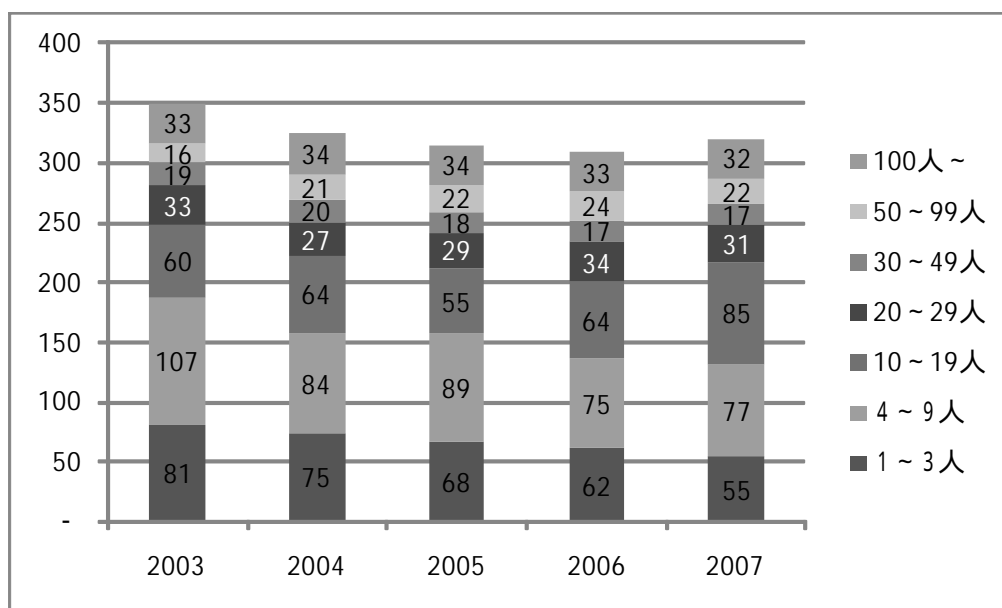


図 産業分類別事業所数割合（出典：茨木市統計書）

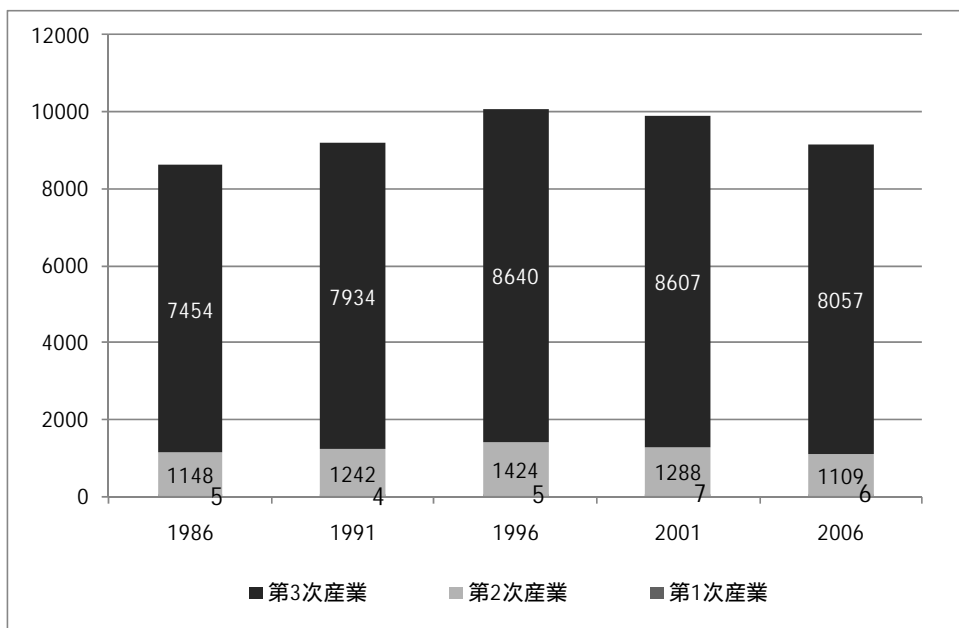
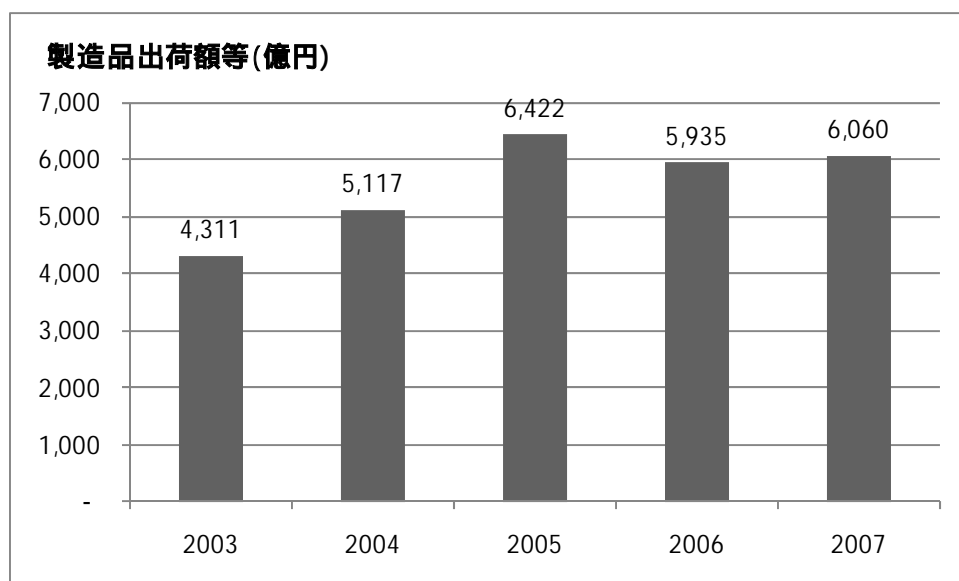


図 製造品出荷額（出典：茨木市統計書）



3) 交通

JR東海道本線と阪急京都線が市の中央部を並行して走っており、市域には、JR 1 駅（茨木駅）、阪急 3 駅（総持寺駅、茨木市駅、南茨木駅）が設置されています。また、大阪モノレールがそれら 2 線をまたぐ形で市域南西部を走り、4 駅（阪大病院前駅、宇野辺駅、南茨木駅、沢良宜駅）が設けられているほか、平成 18 年度には、大阪モノレール彩都線は 2 駅（豊川駅、彩都西駅）が開業を迎えました。

旅客状況（2008 年度）は、JR 茨木駅で 16,676 千人、阪急 3 駅で 24,847 千人、大阪モノレール 4 駅で 7,312 千人、彩都線 2 駅で 1,189 千人となっており、ここ 5 年では大阪モノレールは増加、JR 及び阪急は同程度の水準が続いています。

バス路線については、JR 茨木駅、阪急茨木市駅等の市の中心部と周辺を結ぶ交通機関として、阪急バス、近鉄バス、京阪バスの 3 社によるバス交通がその主な役割を果たしています。バス乗車人数は、3 社の合計で 10,000 千人弱であり、直近 5 年では減少傾向にあります。

道路については、名神高速道路、近畿自動車道のほか、国道 171 号、大阪中央環状線など多くの広域幹線道路が走っています。

図 道路交通網（出典：茨木市観光協会）

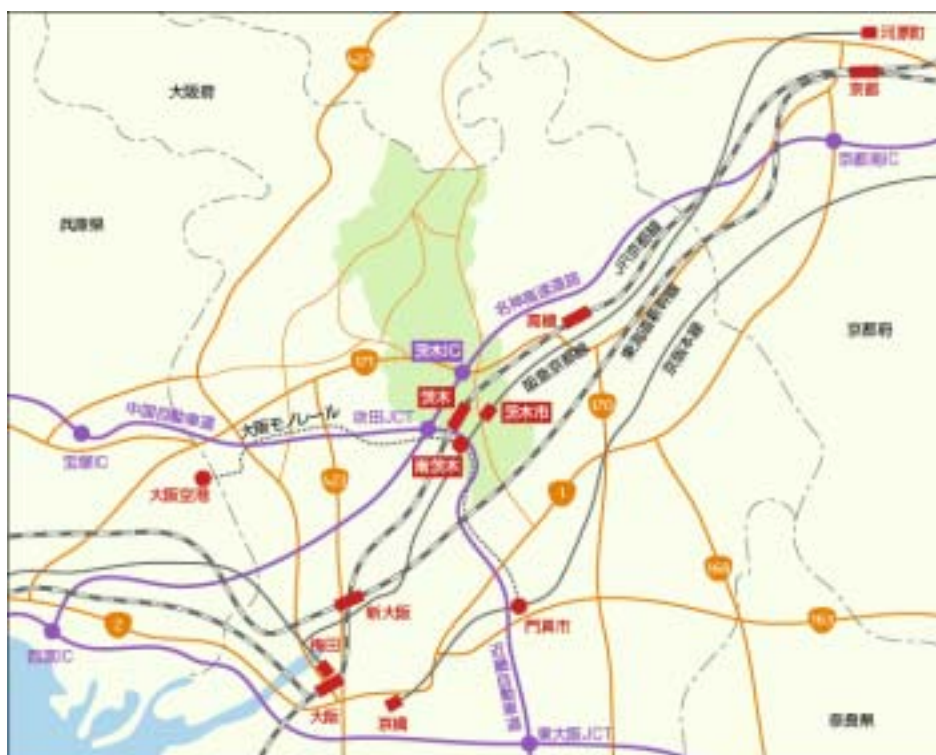


図 鉄道利用者数（出典：茨木市統計書）

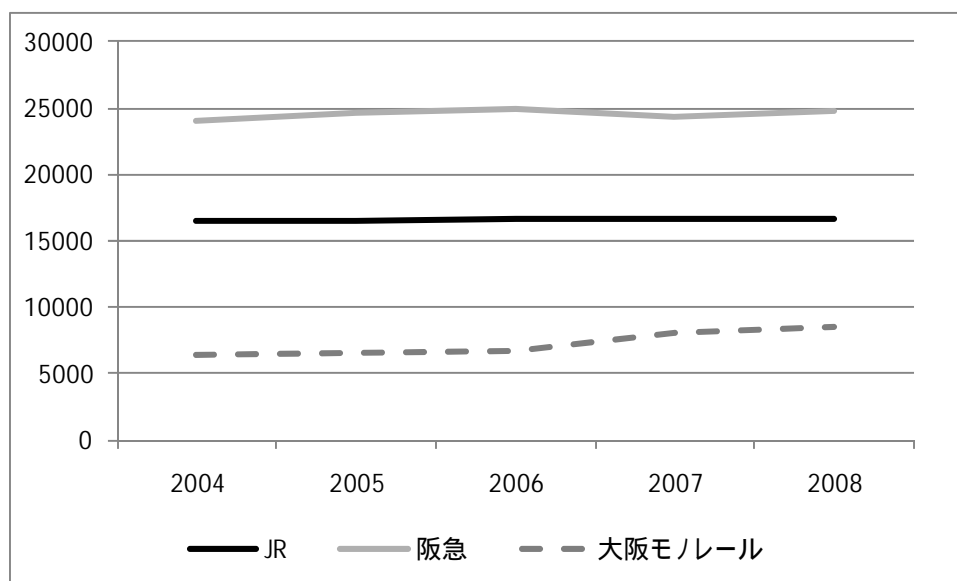


図 バス乗車人数（出典：茨木市統計書）

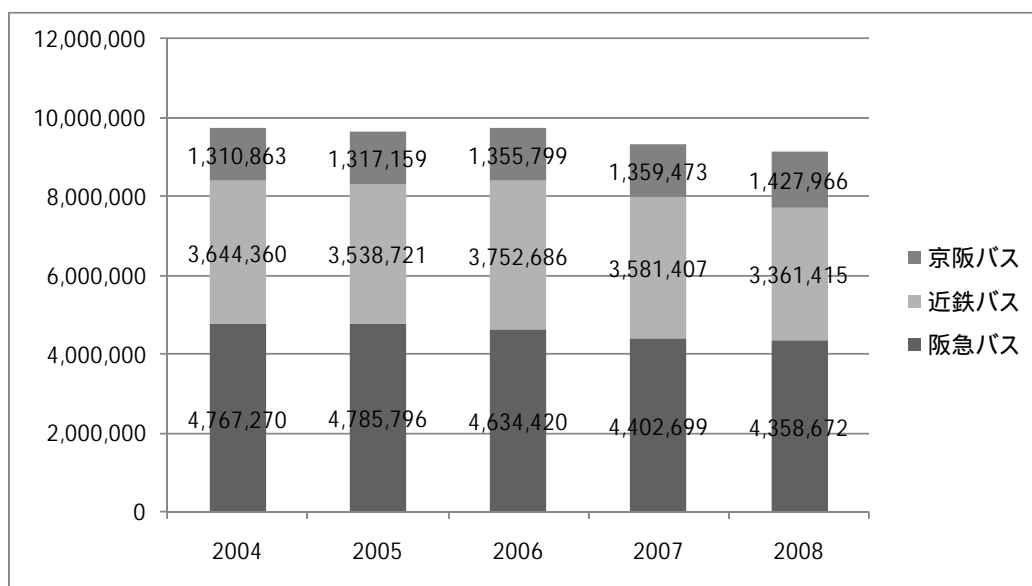
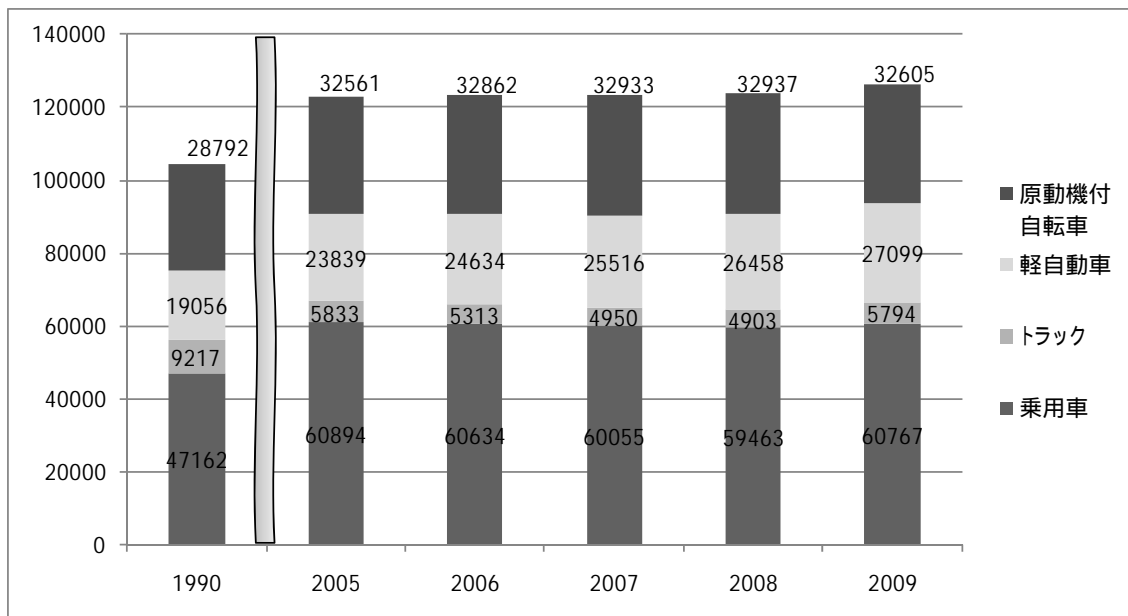


図 市内在籍自動車保有台数（出典：茨木市統計書）



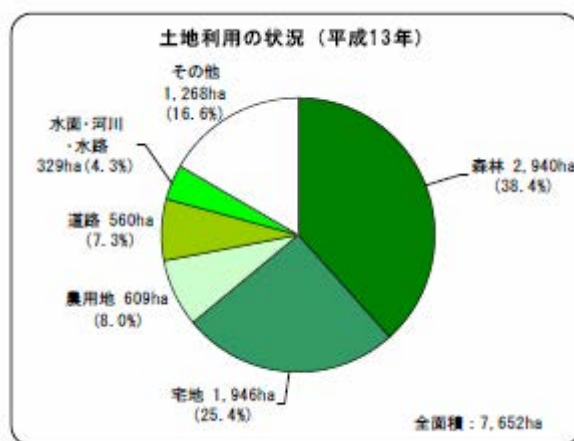
4) 土地利用

茨木市の土地利用状況は、森林が2,940haと市全域の38.4%を占めています。ついで、宅地が1,946ha(25.4%)、その他(官庁、学校、ゴルフ場等)1,268ha(16.6%)、農用地609ha(8.0%)などとなっています。

土地利用に関する主な法規制である「都市計画法」により、市域全体が都市計画区域に指定されており、市街化区域と市街化調整区域に区分されています。市街化区域においては、地域特性や市街化の発展方向などを踏まえ、適正で合理的な土地利用を誘導するため、用途地域等の地域地区を定めています。

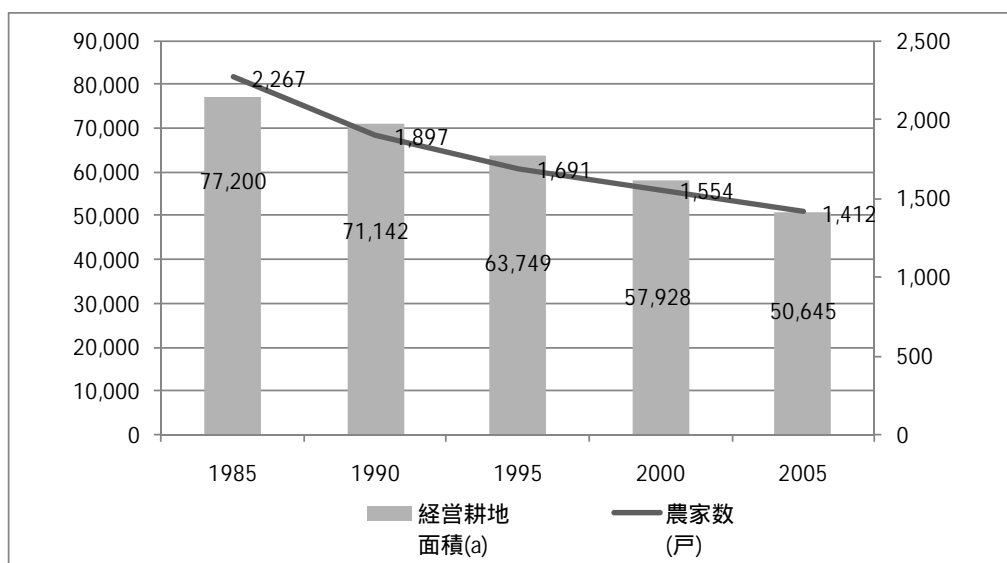
また、国土利用計画法に基づく大阪府土地利用基本計画により、都市地域、農業地域、森林地域及び自然公園地域が指定されています。

図 土地利用の状況(出典:平成13年度大阪府国土利用計画)



平成22年度大阪府国土利用計画は、平成22年府9月大阪府議会上程中で、12月末で決定します。

図 経営耕地面積と農家数の変遷



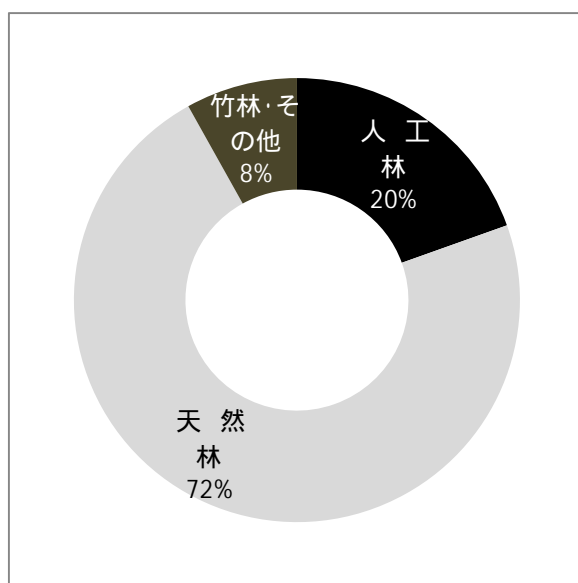
林業について

茨木市の森林面積は、平成20年現在で2,791ヘクタール、林野率は36.5パーセントであり、気候の影響によりほとんどが暖帯林に属し、アカマツの天然林が多く、次いでクヌギ、コナラ等の広葉樹林が見られ、暖帯林本来のシイ、カシ林はわずかに存在する程度です。しかし、マツ林では松くい虫の被害が依然として存在し、解決すべき問題となっています。人工林については548ヘクタール、人工林率は約20パーセントとなっています。大阪府下平均から見ても人工林への転換は依然として低調ですが、毎年微増しています。

近年、森林の公益的機能が全国的に注目され、特に都市近郊林において、その傾向が著しく、人工林一辺倒の林業経営が見直されはじめ、市民からは身近な自然環境資源としての保全整備に対する期待が強くなっており、この豊かな森づくりを実現するために森林ボランティアなどの参加による森林の整備が行われています。

参考 人工林率 = 人工林面積 (548ha) / 樹林地面積 (2,580ha)

図 森林資源面積 (出典：茨木市統計書)



5) 住宅

茨木市内の住宅着工床面積は、毎年20～30万m²程度で推移しているが、2007年には20万m²を割り込んでいる。建て方別世帯数は、持ち家が最も多く、1988年以降増加している。

図 新築着工床面積（住居）（出典：茨木市統計書）

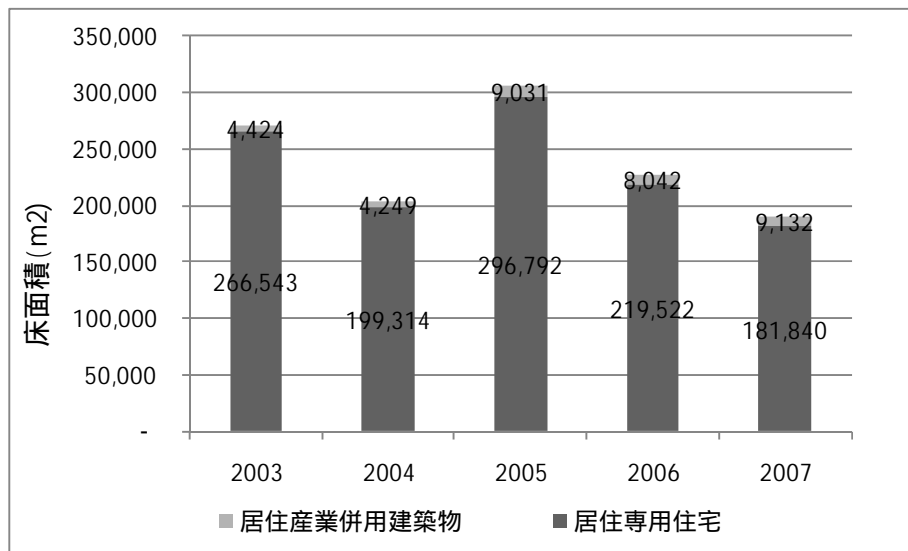


図 建て方別世帯数の変遷（出典：茨木市統計書）

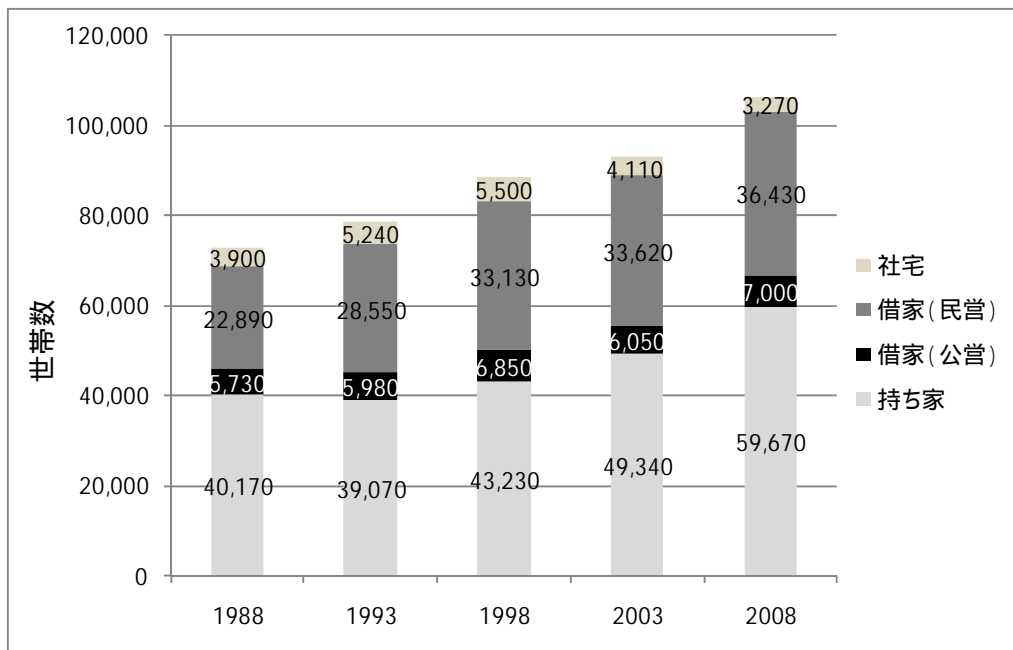
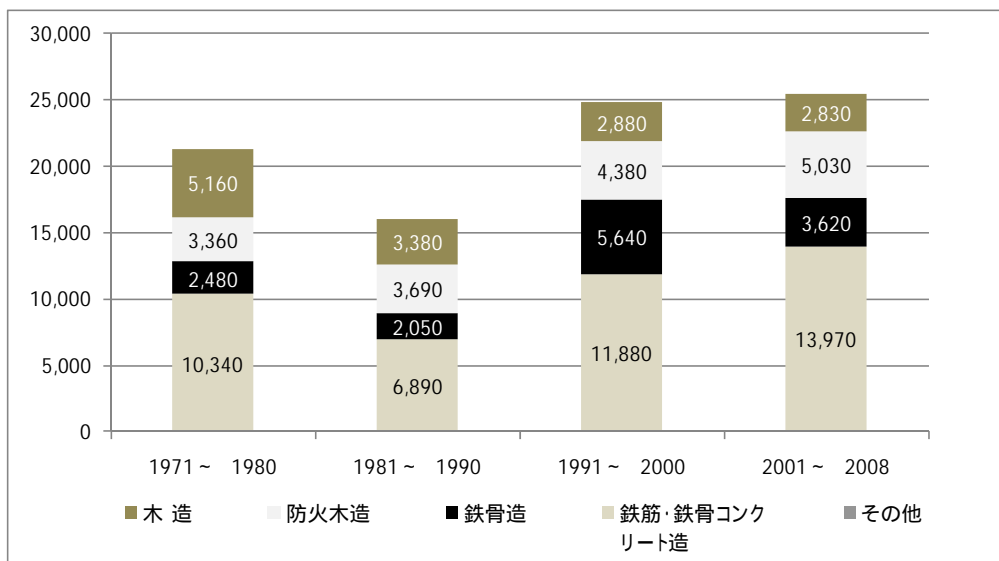


図 構造別住宅着工数（出典：茨木市統計書）



6) 茨木市の取組み

これまで茨木市では、平成7年度の「こどもエコクラブ」を皮切りに、平成10年度には「いばらき環境フェア」、平成12年度には「環境家計簿」を開始し、市民主体の環境事業への取組を進めています。新エネルギーに関しては、平成16年度から住宅用太陽光発電設置補助をスタートさせ、以来、平成22年度まで継続してきた結果、549件の導入により、1,918kW(2010年7月22日現在)の導入を実施するに至りました。

一方、事業者への対策としては、平成10年度に低公害バス導入補助を開始しており(平成18年度で終了)、現在は新エネルギー導入や省エネルギー改修に対して、5/9(上限250万円)の補助金事業を実施しています。

さらに、行政としては平成13年度に茨木市地球温暖化対策実行計画策定を行い、本年度は当地域エネルギービジョンを策定いたしました。

表 これまでの茨木市の取組状況

主体	年度													H22
	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	
市民	住宅用太陽光発電設置補助【H16~】													緑のカーテンモニター【H21~】
	こどもエコクラブ【H7~】 ・ 小学校5年生向け副読本発行【H7~】													
	環境家計簿【H12~】													
	環境家計簿コンテスト等普及啓発【H16~】													
	環境教育ボランティア登録制度【H13~】													
	環境教育・学習基本方針【H19~】													
	いばらき環境フェア【H10~】													
事業者	低公害バス導入補助【H10~H18】													
	環境管理制度導入補助【H19~】													
	地球温暖化対策設備導入補助【H22~】													
行政	新規施設に設置【H14~】													
	エコオフィスプランいばらき【H12~】													
	茨木市地球温暖化対策実行計画(市事務事業のみ)【H13~】													
	ISO14001認証取得(本庁舎・消防本部)【H19~】													

(3) 地域特性まとめ

自然特性	
位置・地勢	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府北部に位置し、京都府亀岡市、高槻市、摂津市、吹田市、箕面市、豊能郡豊能町と接している。 ・市北半分は丹波高原の老の坂山地の麓の丘陵地、市南半分は三島平野が広がる。
気象	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかな瀬戸内海気候区 ・平均風速は 1.8m/s と弱い。 ・平均気温は直近 30 年間で 2.2 上昇している。
社会・経済特性	
人口と世帯数	<ul style="list-style-type: none"> ・人口および世帯数が増加している。 ・世帯数の増加率が高く、世帯当たり人口は減少している。 ・世帯人数は、1～3人世帯が増加している。 ・15歳未満人口が減り、65歳以上人口が増加している。 ・単身世帯や夫婦のみ世帯など、世帯人数の少ない世帯が増加している。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所、従業者数ともに 1996 年をピークに減少している。 ・2003～2007 年では、10 人以下の中小企業が減少している。 ・第 3 次産業が非常に高い割合だが、1996 年以降は減少傾向にある。 ・製造品出荷額は 2005 年をピークに 6000 億円程度で推移している。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 東海道本線、阪急京都線、大阪モノレールがそれぞれ運行しており、ここ 5 年はモノレールの延伸(2006 年)以外では、利用者数は安定している。 ・バス路線は、阪急バス、近鉄バス、京阪バスの 3 社が運行しており、利用者数は全体的に微減傾向である。 ・自動車保有台数は、1990 年時点では 10 万台程度であるが、直近 5 年では 12 万台を超えている。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・森林が 2940ha と最も多く、次いで宅地が 1946ha となっている。 ・耕地面積は 30%程度、農家戸数も 25%減っている(1990 年比) ・茨木市の森林は、天然林率(アカマツが主)が 72%、人工林率が 20%程度であり、森林ボランティアによる森林整備が実施されている。
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・新築着工床面積は、2005 年をピークに減少している。 ・建て方別世帯数分類では、持ち家が増加している。 ・構造別住宅着工数は、木造住宅が減少し、鉄筋鉄骨コンクリート造が増加している。
茨木市の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 7 年度より市民向けの取り組みが実施されており、住宅用太陽光発電設置補助金は平成 16 年度から継続して実施している。